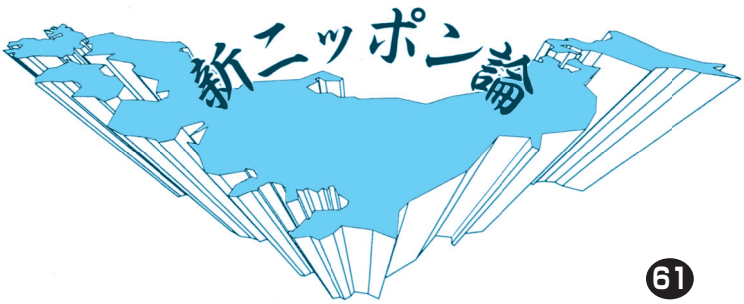
田中康夫の



カジノという「コンテンツ」 61

偉大な発明の電気やガスも、そのまま山中や街中に置くと樹木は焼け、人は死にます。それらを活用して如何なる利便や充実を生み出せるか。コンテンツ（中身）が問われています。なのに物体（オブジェクト）や話題（サブジェクト）が即ちコンテンツ、と勘違いし続ける〝お子ちゃまニッポン〟。

2016年12月施行の特定複合観光施設区域の整備の推進に関する法律＝「カジノ解禁法」に続き、今年7月20日成立の特定複合観光施設区域整備法＝「カジノ実施法」を巡り、相も変わらぬ神学論争が展開中です。

中内功氏と80年代の高度消費社会を牽引した堤清二氏は「武器と麻薬と売春だけは決して扱わない」と事ある毎に発言しました。その矜持や良し。他方、辻井喬氏と同じく作家のフョードル・ドストエフスキーは賭博に嵌まる性格が『罪と罰』を生み出しました。泥棒と娼婦という人類最古の職業の一群に博徒も連なるのです。

日本のメディアが報じるお約束の〝三大都市〟はラスベガス、シンガポール、マカオ。が、それ以外にも東京都港湾局がHPに記載する「合法カジノ」設置国は140ヶ国。イタリアのヴェネチア、ドイツのバーデン＝バーデンにも由緒正しきカジノが存在します。ゴンドラで夙に知られる前者は元より街全体が比類なきコンテンツ。黒い森の一廓の、街の名称自体も〝入浴＝沐浴〟を意味する後者のクアハウス（複合温泉施設）は、マレーネ・ディートリヒが風光を称揚し、ルーネットで身を滅ぼす『賭博者』の着想をドストエフスキーが得た時空。

西海岸での一攫千金の中継点としてネバダ砂漠に忽然と誕生し、エルヴィス・プレスリーも舞台に立ったラスベガスは、1973年の為替レートで約5億円を浜田幸一氏が擦った往時とは一変。世界最大のCES＝全米家電見本市、IBMの人工知能やアップルの新製品発表会等々。同僚や家族とともにミーティング（会議・研修）、インセンティヴ・ツアー（報奨旅行）、コンファランス（大会・学会）、エキシビション（展示会）即ちMICEに参加する人々が、ショーやカジノにも足を運ぶ街へと変貌しました。

「外界からの悪い波を止め、自分達の街は自分達で護り育むのが波止場の矜持」。藤木幸夫氏は7月18日、公開講演会を開催。景気の反動を伴う東京五輪や大阪万博に象徴される経済効果の「一過性」から脱却し、宿泊・飲食・運送・観光等の多岐に亘る経済効果の「恒常性」を創出するMICE中核施設として、フランクフルトや上海と伍する規模の国際見本市が開催可能な25万平米以上の国際展示場を47万平米の山下ふ頭に民設・民営で実現を、とコペルニクス的転回を宣言したのです。

47万平米のハノーバーを筆頭に上海、フランクフルト、ミラノ、広州、昆明、ケルン、デュッセルドルフ、パリ、シカゴ。展示会場ベスト10は25万平米以上。日本最大ビッグサイトは10万平米に満たず世界77位。加えて「国策」東京五輪メディア・センターに用いる準備で来年4月から20ヶ月間、利用不可。虎視眈々と狙う中国勢。これぞ嘘偽りなき「国難」です。

返還後もスタンレー・ホー氏が君臨するマカオのカジノは『007ワールド・イズ・ノット・イナフ』に登場したアゼルバイジャンのバクーと同様、中国やロシアの高官＆富豪にとっての「資金洗浄場」。ラスベガスやシンガポールとて、スロットマシンに興じる観光客のみで「採算」が取れる訳もありません。

「日本のIR構想なんて、童貞と処女がAVの脚本を書いてるレベルで赤子の手を捻るが如し」。知己の井川意高氏がインタヴューで微苦笑したのを想起します。

★次号8月号の発行日は8月31日です。

が会長を務める横浜港運協会　で大王製紙創業家三代目